

第9回 リスクコミュニケーション講演会を開催



講師の明石 眞言氏



講演会の様子

3月7日、東通村防災センターにおいて「第9回リスクコミュニケーション講演会（主催：東通村、協力：電気事業連合会、（一財）日本原子力文化財団、東北電力㈱）」が開催されました。

この講演会は、原子力災害が発生した時に、村民の皆さんが冷静に行動できるよう、原子力に関する様々な知識を習得していただくために開催しているものです。

今回は、医学博士・医師として、長年、様々な放射線事故の医療に対応し、国や自治体の委員会で、被ばく医療に関する専門家として、数多くの委員や座長を務める、明石 眞言氏（東京医療保健大学 東が丘看護学部 看護学科 教授）をお招きし『放射線による人体影響』と題しご講演をいただきました。

村では、原子力発電所との共生による村づくりを目指し、今後も様々な取り組みをしていくこととしておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

東通村原子力発電所安全対策委員会を開催



会長(畑中村長)挨拶



会議の様子



東北電力(左)・東京電力HD(右)による説明

3月17日、東通村防災センターにおいて、東通村原子力発電所安全対策委員会（会長：畑中 稔朗村長）が開催されました。

この委員会は、村内の関係機関の長等により構成され、村の原子力発電所に対する対応状況の報告や確認などを行うとともにご意見などを伺い、村として、様々な対応をしていくために設置しているものです。

会議では、村から安全協定や原子力防災の取組などを報告し、委員の方々に確認いただきました。また、東通原子力発電所の現状について、東北電力㈱及び東京電力ホールディングス㈱から説明がありました。

東北電力1号機は、運転を停止中であり、原子力規制委員会による新規制基準適合性に係る審査が継続中です。東京電力1号機は、本格工事の開始を見合わせており、新規制基準適合性に係る審査に向けて、地質調査や設計検討などが進められています。

原子力防災対策や安全対策について、国・県・事業者においては様々な検討が進められていますが、村としても、村民の安全と安心のため、全力で取り組んでまいります。

次世代を担う子どもたちへ図書寄贈

3月17日、東北電力㈱東通原子力発電所（小笠原 和徳所長）から、東通小・中学校を対象に図書が寄贈されました。

同社はこれまで、3月25日の「電気記念日」や、10月26日の「原子力の日」にちなみ、図書や実験器具などの副教材を多数寄贈しています。55回目となった今回は、図書計163点を寄贈いただきました。

今回の図書を含め、これまで寄贈いただきました図書・教育副教材は、当村の次世代を担う子どもたちが幅広い分野への興味・関心を高め、健全な心身をはぐくむために活用させていただきます。



畑中村長と小笠原所長